

第6回緩和ケア市民公開講座 ～地域で支えるがん緩和ケア～ 「このまちで ふつうに暮らす」のアンケート結果

日 時：平成24年11月17日（土）13：30～15：45

場 所：鶴岡市中央公民館 市民ホール

報 告：「庄内プロジェクトの取り組み」

鈴木 聡 先生 庄内病院

寸 劇：「あなたが 家族が がんと診断されたら」

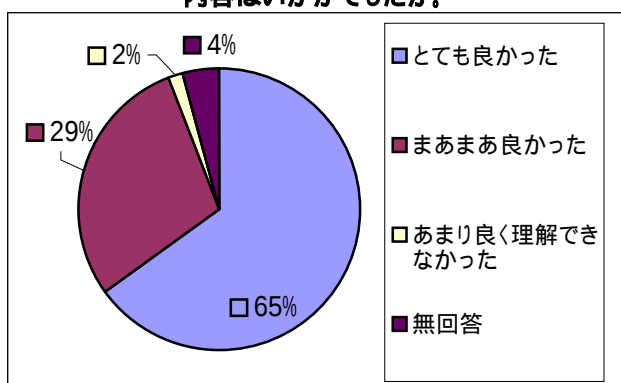
庄内プロジェクト有志

講 演：「心の痛みをやわらげる」 ～がん患者の経験から～

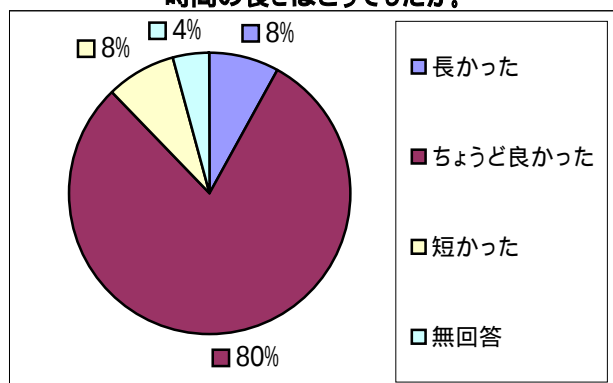
講 師：岸本 葉子 先生 エッセイスト

参加者数：183名 アンケート協力者：171名

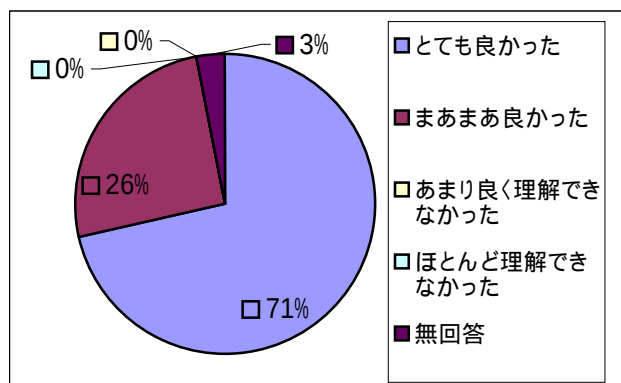
(1-1)報告「庄内プロジェクトの取り組み」
について伺います。
内容はいかがでしたか。



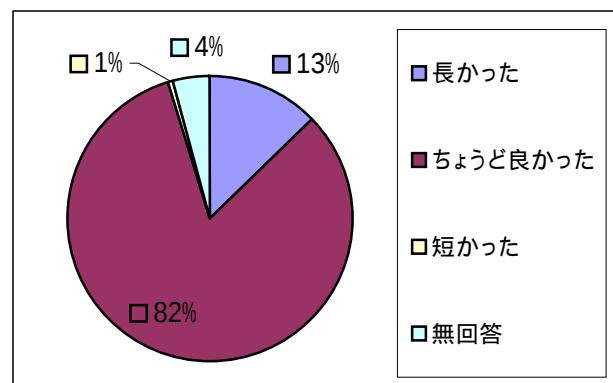
(1-2)報告「庄内プロジェクトの取り組み」
についてうかがいます。
時間の長さはどうでしたか。



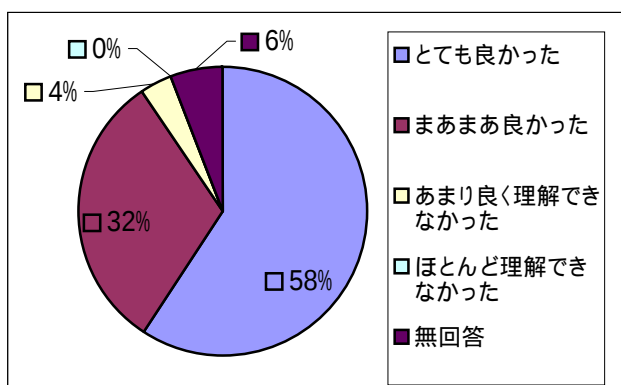
(2-1)寸劇について伺います。
内容はいかがでしたか。



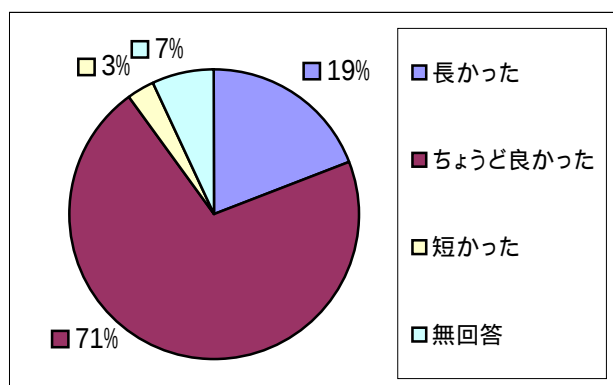
(2-2)寸劇について伺います。
時間の長さはどうでしたか。



(3-1)講演について伺います。
内容はいかがでしたか。

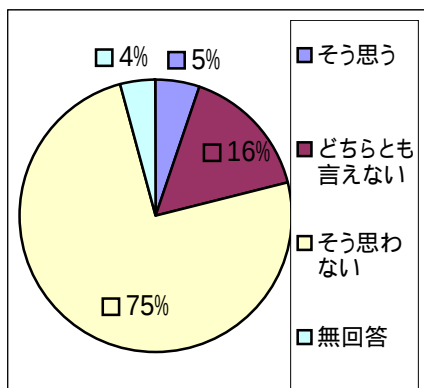


(3-2)講演について伺います。
時間の長さはどうでしたか。

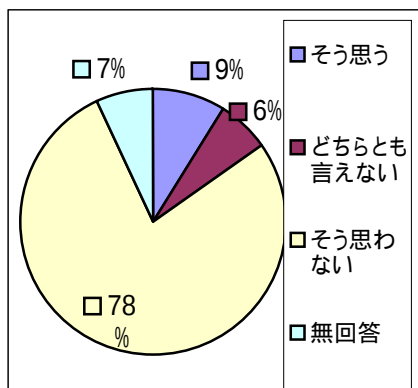


(4) 緩和ケアや在宅医療についてのあなたのイメージについてうかがいます。
あてはまるものをお選びください。

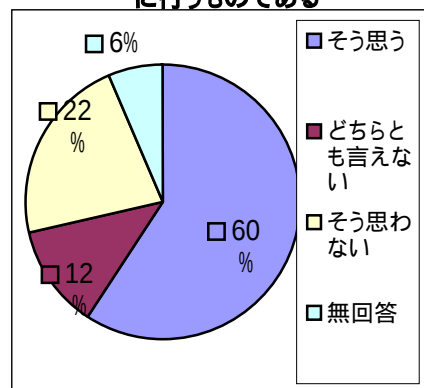
がんになっても病名を告知されたくない



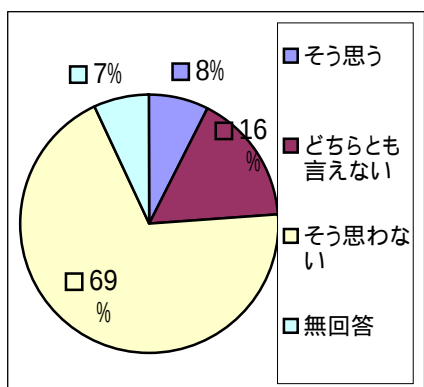
緩和ケアとは、末期の患者さんだけが受ける医療・ケアである



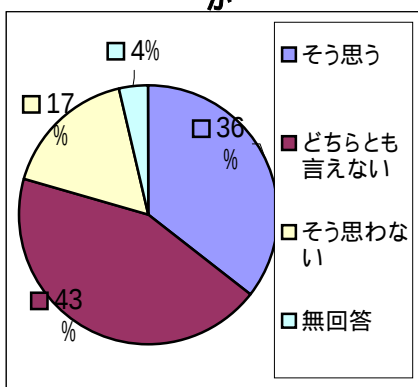
緩和ケアとは、化学療法や放射線治療など、がんに対する治療と一緒に
行うものである



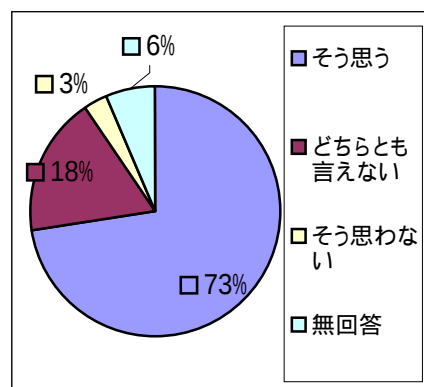
医療用麻薬を使用すると中毒になる



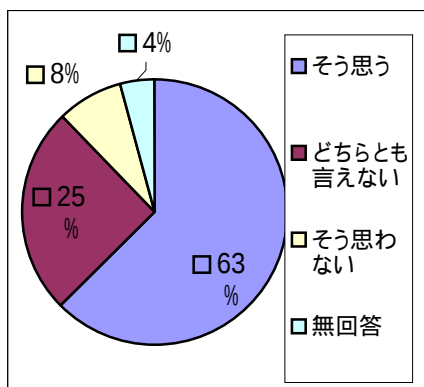
あなたが、がんだったら、亡くなる
最期は自宅で過ごしたいと思えますか



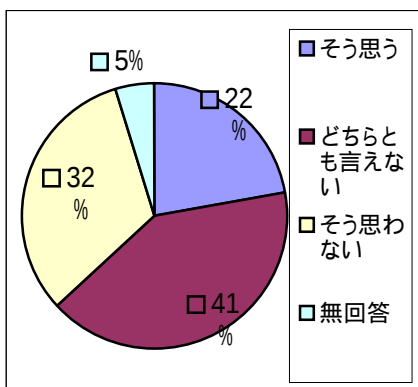
自宅で療養することは、介護し
てくれる家族に負担が大きい



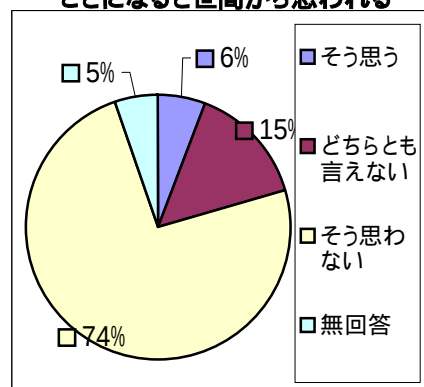
自宅では、症状が急に悪くなっ
たときの対応が不安である



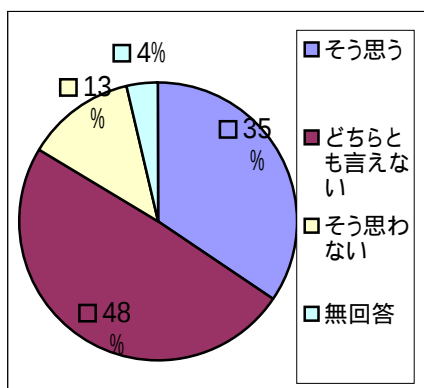
自宅では、十分に苦痛を和らげ
ることができない



自宅で最期を看取することは、家族
が患者に十分な医療を与えていない
ことになると世間から思われる

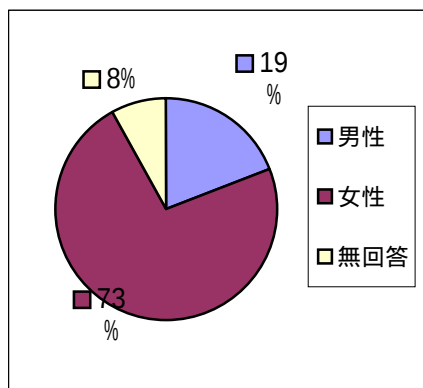


この地域ではがんになっても
安心して過ごせると思う

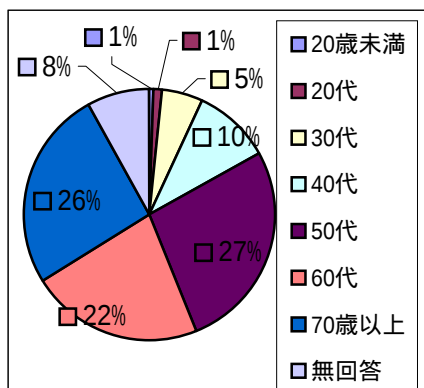


(5) あなた自身についてお聞きます。

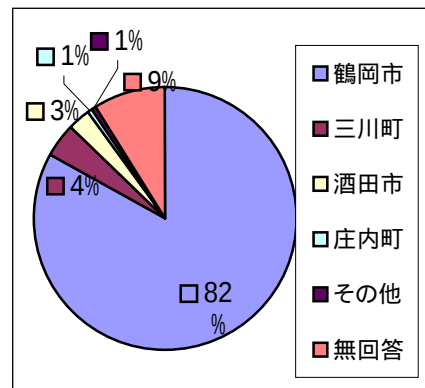
(5 - 1) 性別は



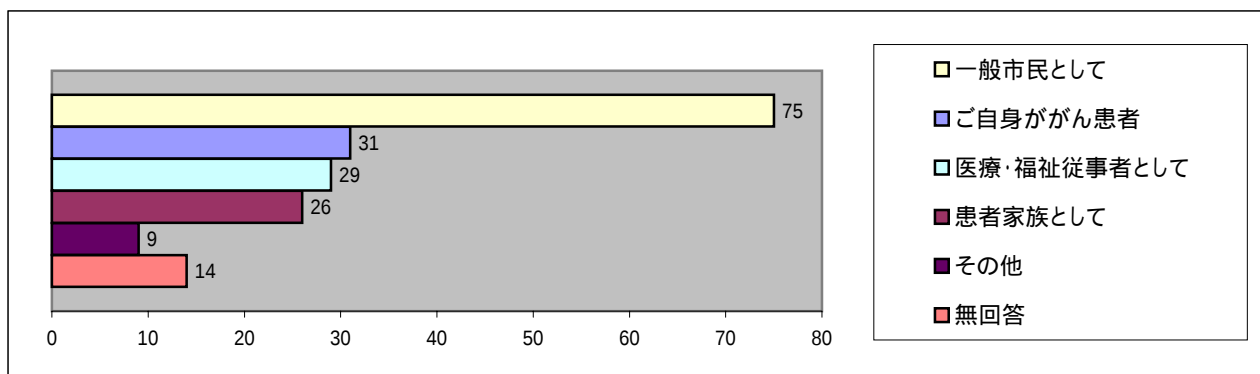
(5 - 2) 年代は



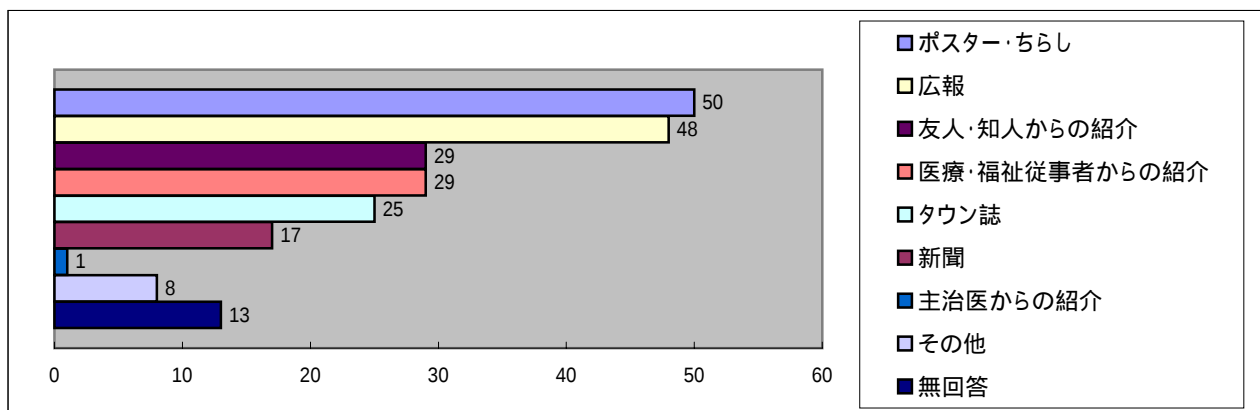
(5 - 3) あなたのお住まいを教えてください。



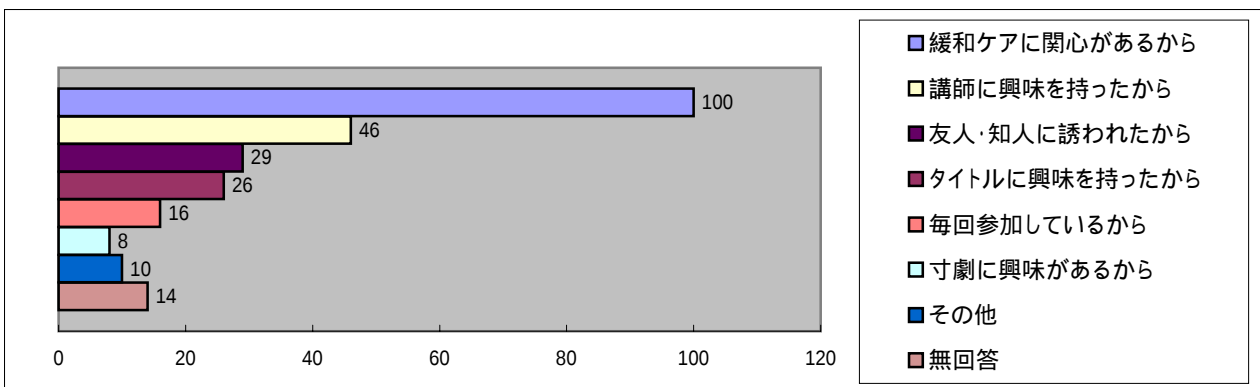
(5 - 4) あなたのお立場は？ (複数回答可)



(6) この緩和ケア市民公開講座をどのように知りましたか？ (複数回答可)



(7) この緩和ケア市民公開講座に参加しようと思ったきっかけは？ (複数回答可)



(8)本日の緩和ケア市民公開講座(講演・座談会)についてのご意見、ご感想、ご要望等がありましたらご自由にご記入ください。また、今後の市民公開講座で取り上げてほしいテーマなどがありましたら、ご記入下さい。

- ・ 庄内プロジェクトについて、庄内病院で平成23年度まで取り組んでいたことや、いろいろ相談できることなど、知らないこともあり勉強になりました。
- ・ 寸劇を取り入れながら、緩和ケアについて学ぶことができて良かったです。実際に看取られた家族様の話を伺う機会があれば感じた。
- ・ うつ病に対して、家族の対応、本人の対応、心のケアなどが聞きたい
- ・ 緩和ケアサポートの学習について、内容や事例等を知りたいと思った。
- ・ 大変参考になりました
- ・ 恥ずかしながら今回初めてこういったお話を目にしました。まだまだご存じない方もおられると思いますので、引き続き継続して、市民の目に届くような公開講座などをお願いします。
- ・ 緩和ケアサポートセンターについて詳しく知るにはどうしたらよいのか。もっと宣伝して連絡先をわかるようにしてほしい。
- ・ 講師の優しい声にうっとりしておりました。緩和ケア……よく理解できました。
- ・ 昨年の今頃腹膜ガンの手術を受け入院中でした。その後の抗がん治療に半年を費やし、退院しました。現在は月1回の割合で病院で検査を受けて通院しております。手術、治療を受けたのが他県のため、地元とのつながりが薄いので不安があります。今後、サポートセンターに伺おうと思います。今回の講演は今の自分にとってさんこうになりました。ありがとうございました。
- ・ 家族がガン転移で抗がん剤治療のため入退院を繰り返すことになりました。今回のタイトルが今とあっている。質疑応答の時間があればよいと思いました。自分自身質問はないのですが、参加した一般の方がどのような不安や疑問を持ち、どのように解決しているのか知りたいと思いました。
- ・ 誰もが病気にかかると思うので、もっともっと多くの人に声掛けをして欲しいと思います。
- ・ 緩和ケアについて今後も一般市民に広く知らせていただきたい。市民としてなにか具体的に参加していく道を探して行きたいと思った。
- ・ 暮らしのエッセイを書かれている岸本さん、がんを乗り越えたからこそその日々の大切さのお話の流れを期待しておりましたので、その部分がなかったのが少々残念です。岸本さんでなければ話せない講話など今後お願いします。
- ・ 患者の立場からの内容なのが良かった。今後看護、介護の経験などについての講演を聞いてみたいと思います。
- ・ 私は80歳、初めての会に出ました。寸劇が大変良かったです。わかりやすくていいになりました。岸本先生のお話は自分にとっても身近に思いました。本当に良かったと思います。私は去年の3月、喉におおきなコブを見つけ甲状腺のガンと言われ庄内病院に半年入院しました。これからもよろしくお願いします。
- ・ とってもわかりやすかった
- ・ 家族ががん患者です。治療中ですが毎日不安でなりません。身近に緩和ケアサポートセンターがあるのだからこれからも相談等、是非利用していきたいと思います。次回もこの講座に参加したいと思います。
- ・ 「このまちで普通に暮らす」のテーマが良いと思います。参加者が少なく残念でした。いいお話だったのに・・・
- ・ 寸劇、素晴らしかったです。岸本葉子さんの講演を聞きにきたのですが、講演の前タイムリーで感動しました。ありがとうございました。
- ・ せっかくの公開講座なのに空席があり残念です。良いお話をありがとうございました。
- ・ 各地区のコミュニティでも講座をして欲しい。(遠距離のため)緩和ケアサポートセンターの意味がわからなかったが、講座を聞いて良くわかりました。ありがとうございました。大変良かったです。

- ・ 庄内プロジェクトの取り組みについて等、寸劇で見せていただいたので、とてもわかりやすかった。病院で診察してもらう時の心構えなどとても参考になりました。いまとなれば、夫を病院に連れて行ったときのことを思い出し、なるほどだな～とつくづく思いました。
- ・ 寸劇をみて不安から安心した気持ちになってきました。
- ・ がん治療の具体的な内容について(最新治療法) がん患者に関わる医療介護の連携 ホスピスの役割を知りたい
- ・ 痛みを抱えているのはガンだけではないと思いますが緩和ケアはなぜがんだけなのか、疑問をもった。自宅で療養したい、死を迎えたい人をサポートする場所はあるのか。考えさせられました。
- ・ 初めて参加させていただきありがとうございます。自分も一人暮らしでがんになったら怖いと思いましたが話を聞いて安心しました。
- ・ 15年間に主人(60歳)がガンで亡くなりました。庄内病院でした。緩和ケアがあったなら主人も家族も悩みや苦しみも聞いてもらえて心安らかにあの世にいられたのではないのでしょうか。また私も同じ年に肺がんの手術を受け完治しました。
- ・ セカンドオピニオン、サードオピニオンについてのあり方、庄内病院の対応のしかたを知りたい。
- ・ 幸い、身近にがんの方がいないことから庄内でがん緩和ケアの取り組みが進んでいること、意識が高いことをはじめて知った次第です。昨年まで長いこと関東都市部に住んでいたことから鶴岡は暮らしやすい健康長寿でいられる地域と思い込んでいましたが実際はがん患者が多いと知り驚きました。我慢強い?と言われる県民性、気質などが影響するのだろうか?自分自身がもしがんに罹ったら最期まで自宅で自分の思うままに過ごしたいが何より経済的な痛み、家族への負担の痛みで苦しむだろうと思う。現在は肉体的痛みのみでなく経済、精神面での支えが地域全
- ・ 寸劇ご苦労様でした。わかりやすかったです。娘が医療従事者なので関心があります。
- ・ 岸本先生のお話、大変良いお話でしたありがとうございました。
- ・ ありがたいプロジェクトです。「ふつうに暮らす」ととても大切なことです。このようなことをしていただいている方々に感謝します。今後も活動が続けてほしいです。来年も参加します。頑張ってください。
- ・ 岸本先生の講演から先に聞きたかったです。
- ・ 寸劇、前よりわかりやすくなりましたね(笑)いい劇でした。
- ・ 一人暮らしでも緩和ケアを受けられるのか説明して欲しい。
- ・ C型肝炎について知りたいです。ドックを受けてわかりました。知らずにいる人が多くいると思います。
- ・ 自分自身もつらい経験をふまえて今がありますが(病気ではなく)なぜかそんな自分を慕っているいろいろな悩みを抱えている人達からお話されます。「苦労したあなただったら私の気持ちをわかってくれるでしょう?」と言うことです。なにもできなくともその人達の心に寄り添って共感し励ませたらと思っています。そのためにも、もっともっと自分自身を高めなくてはの気持ちから参加させていただきました。ありがとうございました。

ご協力ありがとうございました。

南庄内緩和ケア推進協議会

緩和ケアサポートセンター鶴岡・三川